

「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年11月

都道府県名	北海道		河川名	網走川			
事例タイトル	手づくり魚道が生み出す生物多様性						
写真							
水系名/河川名	網走川水系/駒生川		場所	北海道網走郡美幌町			
位置情報 (緯度経度)	43.803746, 144.124909		活動開始年	2009 (H21) 年			
活動概要 (経緯・目的等)	<p>昭和50年代に行われた治水工事や農地改良によって、駒生川は豊かな自然を失い、魚が全く遡上できない川になりました。そこで、会員と地域住民が一丸となって、地元産の木材や畑から取り除かれた石を使って、魚道を手作りしました。また、コンクリートで固められた川底に木材などを設置し、多様な流れを生み出すことで、水生生物の生息環境を復元しました。</p> <p>こうした活動が実り、上流域で絶滅したサケ科魚類が甦り、オジロワシやヒグマの生息を確認しています。駒生川は自然豊かな流れを取り戻しつつあります。</p>						
再生の手法	簡易魚道	○	簡易水制 (巨石・ブツク)	パープ工 (上向き水制)	○	石倉かご・竹蛇籠	植生ロール・ポット
	魚道改良	○	たまり・わんど造成	河床攪乱		その他 (記述)	
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者 (国)	河川管理者 (都道府県)		河川管理者 (市町村)	河川管理者以外の地元自治体
	大学・研究機関	○	学校 (小中高)	企業	○	その他 (記述)	地域博物館
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産の木材や畑から取り除かれた石を使って、魚道を手作りしました。 ・サケ科魚類のみではなく、フドジョウやハナカジカなど遊泳力の乏しい魚たちにも配慮しました。 ・地域博物館や大学などと連携し、手作り魚道の効果について科学的に検証しています。 						
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期的目標 美幌町内に存在する河川横断工作物は、60基をこえる落差工があり、砂防ダムなども入れると100基をこえます。そのため、手作り魚道は、さらに多くの支流にも広げていき、流域全体での水生生物の移動を促進していきます。そして、川を通じた海と森との物質循環も各支流で回復させます。また、環境省、北海道、漁協などの関係機関への働きかけと協力関係を築き、活動を活発にしていきたいです。 ● 長期的目標 美幌町周辺には、絶滅危惧種のシマフクロウが生息しています。彼らの生息には、豊富な魚と営巣のための巨木など、優れた河川環境が必要です。残念ながら、現在、美幌町にはシマフクロウは生息していませんが、今後、手作り魚道を通して、自然再生を促進させていくことで、シマフクロウの生息できる地域へと復元していきたいと考えています。また、流域の森林を保全するために努力し、保全価値の高い土地については所有できるよう会の法人化などについても検討したいです。 						
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>手作りの魚道が設置され、サクラマスとイワナが遡上し、産卵しました。一方、サクラマスやイワナの増加に伴って、ハナカジカが減少する傾向にありました。おそらく3種類が虫や魚を食べる肉食性魚類なので、食べ物が大きく重複し、争いがおこったのではないかと考えられています。これまで魚道を設置すればすべての魚に恩恵をもたらすと考えていましたが、ハナカジカのように生息数が減少することもあるのだと驚きました。</p> <p>また、魚類相の回復に伴い、魚を食べるオジロワシやヒグマの生息も確認することができました。</p>						
関連URL等	https://www.facebook.com/gvodouwotsukurukai/						